

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第48号

2014.7



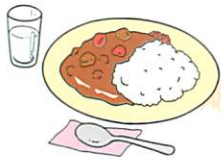
カレーライスパーティーの招待状です！



春の遠足 丸亀城

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 4・5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10



カレーライスパーティー大成功♪



畑のバトンタッチから収穫まで



昨年度の3月。今の青組さんが赤組さんのとき、ジャガイモの種芋を植えました。毎年、年長児さんから畑と一緒に一人一人の名前の書かれた名札と種芋をプレゼントしてもらいます。そう、畑のバトンタッチです。「大きくなってね」と思いを込めて、ペアの青組さんと種芋を植えました。

そして、進級した4月。朝一番に「芽が出ている！」とジャガイモの発芽を飛び跳ねて喜ぶ姿がありました。

毎日水やりしたり、お家の人と一緒に草抜きをしたりして、大事に育てた5月。登園の度に「ぼくのジャガイモ見て！」と畑まで手を引いたり「おいしいカレーができないから」と遊びの中、ひたすら草を抜いたり…それぞれがジャガイモの生長を見守りました。



「葉が枯れてきた…」と泣きそうな顔で心配した6月。収穫のときがきたサインです。「よしよし！」と抜くと、出てくる出てくる♪立派なジャガイモも赤ちゃんジャガイモも、ごろごろ穫れて豊作でした。

待ちました♪カレーライスパーティー

いよいよカレーライスパーティー当日。お誕生会と兼ねて6月12日に開催しました。保護者の方にも手伝ってもらいながら野菜を切ったり、鍋の中の具を混ぜたり、「美味しくなあれ！」と一人1個カレールーを入れたり、どの活動も生き生きしている青組さん。ぐつぐつ煮込めば美味しいカレーが完成！もう、幼稚園中がカレーの匂いに包まれています。「できた?」「いいにおい～」と青組のお部屋を何度ものぞきに来る赤組さん。鍋から離れず青組さんが混ぜるのをじっと眺めている黄組さん。そんな姿がとってもかわいかったです。



一つのテーブルを囲んで座る黄・赤・青組さん。青組さんがみんなのお弁当箱にカレーを入れて「はい、どうぞ!」と持ってきてくれます。よく見ると口がもぐもぐ動いている黄組さんや赤組さんがちらほら…。「いただきます」を待てないくらい美味しそうなカレーだったんですね!「おいしい～」と食べてくれる黄組さん、赤組さん、先生、保護者の方の顔を見て「大成功やな!」と笑顔の青組さんでした。これまでずっと作ってもらった側だった青組さん。いよいよ自分たちがふるまう側になり、たくさんの人に「おいしい」と言ってもらえた体験は心の栄養になったことでしょう。また、黄・赤組さんの心にも憧れや感謝の花が咲いたように思います。心もおなかも幸せ満タンのカレーライスパーティーでした♪



研究主題(仮)

対話を通した「思考力」の育成

昨年度までの2年間は、特別支援教育の考えを生かして子どもの思考活動を保障しようと取り組んできました。その中で課題となったのは、子どもの学び合いです。そこで、言語を中心とした関わりに焦点を当て、対話を通して「思考力」を育成することとしました。本校では対話を「個々の考えを広げ深める、自己主張と他者受容のある他者との主体的なかかわり」と定義し、思考力育成に必要な多様な考えを出させること、それらをつなぎ学び合いを促進させることに重点を置き、授業の中に対話を取り入れ「思考力」の育成を図っています。

研究授業

5年 国語科「川野さんの意見と理由の関係について考えよう」

尼子 智悠



【全体で吟味する対話】

例示された話を聞き、その理由が意見にふさわしいかどうかを考えました。そして、なぜそう考えたのかを友達と対話することで、新たな視点に気づき、より考えの幅が広がるようにしていきました。

具体的には、教師が作った川野さんの話を聞き「水そうで飼っているメダカは幸せだ。」という意見とその理由がふさわしいかどうか吟味し、自分の考えをまとめる言語活動を行いました。

まずは、「水そうで飼っているメダカは幸せだ」という意見に添えられた「囲まれているから」という理由について自分で考えました。ふさわしいと考えた子どもたちは「敵に襲われない」「安心できる」等の考えから、ふさわしくないと考えた子どもたちは、「せまい」「自由ではない」等の考えからそのように判断していました。そして、全員で対話をしていくうちに、「卵のことを考えたら安全な方がよい」のような新たな視点が出され、自分の立場を変えたり、より自分の考えが強化されたりする子どもたちの姿が見られました。

また、「エサがもらえるから」という理由については、友達と自由に対話しました。ふさわしいかふさわしくないかで、同じ考えの子どもや異なる考えの子どもが対話することで、新たな視点を獲得することができました。エサの量についての視点しかもっていなかった子どもが、水質やエサの回数、エサの種類などの視点に気づき、再び考え直しました。自分もっていた視点と友達から得た視点を合わせて、理由が意見にふさわしいかどうか自分の考えをはっきりさせながら考えることができていました。



【理由の妥当性をペア対話】

3年 体育科「決めるぞ着地！—台上前転—」

山本 健太



【視点を絞ったペア対話】

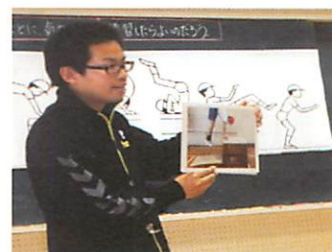
子どもたちは、体操のオリンピック選手のピタッと決まる着地を見て、「自分たちもかっこよく着地を決めたい」という思いをもちました。そして、理想の姿と自分を比べながら、「どうすれば着地が決まるのか」を追求していきました。

まず、理想とする台上前転の動きを目指して、思考力を「局面をさかのぼることで、自己の課題を的確に設定する力」と設定しました。着地が上手くいかなかった原因は、そこから局面をさかのぼって見ることで、課題が明確になっていきます。中学年のこの時期に自己の課題を的確に設定する力を身に付けることは、今後、課題を解決する方法や練習

場所を見いだしていく際にとっても重要なことです。

本実践では、自分の台上前転の姿と理想の姿とを連続写真で照らし合わせ、課題がどの局面にあるのかを見つけました。そして、同じ課題をもった者どうしが対話することで、自分が見つけた課題が適しているかどうかを確認し合いました。さらに全体で対話を行い、各局面の中でより具体的な技のポイントを共有しました。自分と理想との具体的な動きの違いを、ワークシートのモデル図の中に書き込んでいくことで、さらに細かな視点を意識して練習に取り組むことができました。

単元の終末に行った発表会では、ほとんどの子どもが台上前転の着地を決めました。そして、「もっと難しい技にも挑戦したい」と、器械運動に意欲的に取り組む姿が見られました。



【部分写真で考える】

6月13日（金） 研究発表会 県内外から800名余参加

「学ぶこと」と「生きること」の統合
 —語り合う中で、自己の「ものがたり」をつむぐ—

6月13日（金）、平成26年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。当日は、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などより800名を超える参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。今回の研究発表会では、ナラティブ・アプローチとしての「語り」の研究を継続しつつ、研究の主眼を「学びの価値」の実感を重視した自己物語へと発展させ、生涯学習を視野に入れた「学ぶこと」と「生きること」を統合を具現化する具体的な指導方法やカリキュラム構想について提案しました。

総合学習シャトル

総合学習「シャトル」は、総合学習「CAN」における探究学習に必要なスキルを異学年合同で学ぶ場として実施してきました。今回の研究では、異教科の教師がペアになり講座内容を新たに開発し、各教科の枠を取り払った探究的な学びの場として展開しました。開設する講座内容は前回大会を継続して「基礎編」と「実践編」に分けることで、探究の仕方をよりスモールステップで確実に習得できるよう工夫し、さらに「基礎編」と「実践編」の間に「特設講座」を設け、16の基本スキルから自分に必要な三つのスキルを選択して学び、「実践編」や総合学習「CAN」に活かすことができるようにしました。大会当日は八つの新たな講座で探究スキルを習得している「基礎編」の様子を公開しました。



【発想！爆SHOW！仮装大SHOW】



【想いを形に一瞬を物語に自分を表現】



【白熱！変数教室】



【魅力ある表現を探り、自ら創り、発信しよう】



【気づき！発見！身近な世界！】



【集めて見たら…そうだったのか】



【アイトリックの不思議】



【疑問解決への架け橋】

教科・学校保健

学ぶ意欲を向上させるために、「自己の『ものがたり』をつむぐ」授業とカリキュラムを提案しました。「ものがたり」の授業とは、自己を形成し、自己実現を図る学びです。学んだことを語り直し、自己の学びの文脈の中で、学ぶことの価値を実感していきます。その際、個々の生徒の得

意、興味、学習スタイル等の特性を表す認知的個性を授業に取り入れることで、より質の高い学びを実現させることができれば生涯にわたって学び続ける意欲につながると考え実践しました。当日は各教科において、具体的な単元構成および授業実践を、学校保健においては「生涯にわたる健康で健全なライフスタイルの確立をめざした健康相談の在り方」を提案しました。



【国語】



【数学】



【音楽】



【技・家】



【美術】



【保健体育】



【外国語】



【理科】

鼎談

2名の先生方をお招きし、「新しい時代の〈意欲を育む〉授業づくり」のテーマのもと、それぞれの研究の立場からご意見をいただきました。松村暢隆先生（関西大学文学部教授）からは、認知的個性を学習に活かしていく「個性を活かす学び」について、秋田喜代美先生（東京大学大学院教育学研究科教授）からは、「ともに学び合うこと」についてお話いただきました。今後も本校の研究を自信をもって進めていける、大きな力を与えてくださいました。



講演

秋田先生には「自己の物語をつむぐ授業」という演題でご講演いただきました。授業において具体的に教材、教室のコミュニケーション、授業の展開を考え、教師がいかにかわり、学び合いを深めていくか、それぞれの学びの物語の保証に向けた授業づくりについて、本校や全国の中学校での取り組みや実践を具体例を挙げながら分かりやすくご提案いただきました。



研究発表会を振り返って…

各教科等の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちが自ら質問したり、語ったりする姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人ひとりの頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があつてのことと深く感謝し、今大会の成果と課題も踏まえ今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っております。



特別支援学校における歯磨き指導の取組から



【年2回の歯科検診】

本校は歯科検診において、「仰向けでの検診」を実施しています。通院を苦手とする児童生徒が多いために、少しでも歯科医院に近い環境設定をしています。

通院が苦手な理由として、治療内容や時間の見通しがもてなかったり、機械音や痛み、言葉での指示などに対する支援環境が整っていなかったりするなどがあり、落ち着いて受診をすることが難しい児童生徒がいます。

そこで、少しでも歯科医院に近い環境設定をしたり、必要に応じて支援ツールを用いたりすることで、通院への見通しをもって、安心してスムーズに受診できることをめざしています。

まず、児童生徒が仰向けになれるように、簡易ベッドを置いて、さらに頭や手の位置が分かるように、人型を描いたシーツを敷いています。また学校歯科医には、白衣とライトをつけてもらうなど、歯科医院に似た環境にしています。さらに、「歯科検診手順表」で何をするのか視覚的に分かりやすく示したり、前の子がしていることを見せたりしています。学校歯科医も仰向けになることで口腔内が見やすく、お互いにメリットがあり、大半の児童生徒が上手に検診を受けることができています。



頭や手の位置が分かる人型シーツ



歯科検診の様子



歯科検診手順表

【年2回の歯科専門学校生による歯磨き指導】

本校では、歯科専門学校の学生が来校して歯磨き指導を行っています。名付けて「やまもも歯医者」。歯科検診と同様の環境設定にしています。

学生には、始めに障害のある児童生徒への関わり方について、養護教諭から資料等を使って説明をします。

そして、小学部では「仰向けでの仕上げ磨き」、中学部・高等部には、「歯の染め出し」と「フッ素ジェルの塗布」を行っています。

小学部では、学生が簡単な言葉掛けや、時間の見通しをもたせるために10カウントしながら「仕上げ磨き」をしています。また受付時に診察券を出し、券の裏面にご褒美シールを貼ることでやる気を高めています。

中学部・高等部では、ユニフォーム姿の学生に慣れたり、染め出しで赤く染まった歯を見て、磨き方を学んだりしています。



歯磨き指導の様子



やまもも診察券



説明資料

【学校での歯磨きの様子】

学校では、給食後に個に応じた支援ツールを使用して歯磨きを行っています。

小学部では、どこを磨くのか示した「歯磨き手順カード」や、中学部・高等部では「iPad」の歯磨きアプリ等を使用して磨いています。

学校での様々な検診や歯磨き指導において、見通しをもたせた指導を行うとともに、家庭や医療機関にも、必要な支援ツールや支援環境について理解してもらうための働き掛けを行っています。



歯磨き手順カード



iPad

特別支援教室「すばる」新スタッフ紹介

特別支援教室「すばる」のスタッフは、香川大学教育学部特別支援教育講座の教員と小学校・中学校・特別支援学校の教員（香川大学大学院に籍を置く現職教員を含む）で構成されています。

今年度、「すばる」は4名の先生を新しいスタッフとして迎えました。今回は、新スタッフとなった4名の先生を紹介します。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

附属特別支援学校から赴任しております。

「すばる」では、幼児（年長）さんから中学生まで幅広い年齢のお子さんが利用されます。昨年度までは、中学生と過ごしていましたが、今年からは小学生や、幼児さんの指導も担当します。一人ひとりのお子さんの年齢や特性に合った指導ができるように、また、集団生活の中で、困難を抱えているお子さんが、少しでも生活しやすくなるような手助けができるよう研鑽に励みたいと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

徳永千恵子



4月から、月・火は「すばる」、水・木・金は附属特別支援学校でお世話になっています。新しい環境にとまどうこともありますが、子どもたちからたくさんの笑顔とパワーをもらい、学ぶことの多い毎日を過ごしております。一人ひとりに合った支援ができるように、これからも勉強していきたいと思ひます。

このご縁を大切に、『笑顔と感謝!!』をモットーに進んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

西岡八重子



今年度、内地留学生としてお世話になっています。「すばる」での研修はまだ始まったばかりですが、その子その子の特性や個性に応じた指導の大切さと有用性を実感しています。教師生活〇〇年、学ぶことはまだまだたくさんあり！です。大好きなひまわりのように、「すばる」に来られるお子さんや保護者のみなさんに元気をもって帰っていただけるよう頑張りたいと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

圖子直美



高松市立鶴尾小学校より、内地留学生として1年間お世話になります。たくさんの先生方、子どもたちとの新しい出会いを大切に、研修に励みたいと思ひています。

「分かった！」と目をキラキラ輝かせている子どもたちの姿を見るのが大好きです。一人ひとりに応じた適切な指導・支援を心がけ、日々学んでいきたいと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

染山友美



今年度（第1期～第3期）の個別指導は定員を満たしましたが、教育相談や心理検査等はお受けしています。詳しくはHPをご覧ください。http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/

幼稚園より

クラス新聞製作（年に2回）

保護者が子どもたちの様子について書いたメッセージを新聞係がまとめてクラス新聞として発行しています。新聞タイトルを募集することから始まり、レイアウトや今回のテーマも相談しながらみんなで決めています。新聞をとじている立体的な表紙は、もはやアートの世界です。このようにすべてがオリジナルの素敵なクラス新聞です。

記事内容については、好きな食べ物や遊びの紹介、わが子がかんばっていること、名付けの由来など、テーマは様々です。一人ずつのメッセージをじっくり読んでいくと、普段仲良く遊んでいるお友達の再発見ができたみたいでなんだかうれしくなります。次回のテーマは、何にしようかなあ？



5歳児青組の新聞 4歳児赤組の新聞 3歳児黄組の新聞

土曜メンテナンス

5月24日（土）、日頃お世話になっている幼稚園をもっときれいにしようと、感謝の気持ちを込めてメンテナンスを行いました。今年もたくさんの保護者や子どもたちの参加があり、和やかな雰囲気の中で、作業が進められていました。入園して間もない黄組の子どもたちも、広いリズム室の雑巾掛けを思い思いに楽しんだり雑巾絞りに挑戦したりしていました。

また、懐かしい学び舎の草抜きに熱中しているお兄ちゃん、丁寧に窓拭きをするお姉ちゃんたちの姿も見られました。みんなで力を合わせて大好きな幼稚園をピカピカにしながら、親子はもちろん保護者間での交流も深まり、とても充実した1日になりました。



ぎゅっと、ぎゅっと！ピカピカになってきたね お花は残してあげよう

小学校より

7月27日には四附連球技大会（四国地区国立大学附属小学校PTA連合会親睦球技大会）が坂出学園主管で行われます。当日は四国島内から200名以上の保護者や教員の方と、今回は視察も兼ねて四国島外からも20名以上の方が参加されます。植田会長、滝上実行委員長の下、坂出学園の役員、常任委員さん、先生方、そしてボランティアの方々に「坂出らしいおもてなし」をするべく着々と準備を行っております。今回はその進捗状況を報告させていただきます。



親睦球技大会の会場ですが、丸亀市の土器川河川敷において男性がソフトボール（スローピッチの部とファーストピッチの部）、女性が隣接した土器川体育センターでバレーボールを行います。6月11日に小雨の降る中、小学校役員一同で現地の状況確認を行い、受付等の配置や更衣室の確認、また参加者の動線や当日の開会式前後のタイムスケジュールを確認しました。（左写真）



6月16日には小学校の家庭科室にて、幼小中役員合同で全体の大まかな説明と各部会（ソフトボール、バレーボール、受付・接待、懇親会）に分かれて具体的な内容の打ち合わせ、準備物の確認や必要人員の調整等を行いました。（左写真）まだまだ見えてない部分も多々あるので今後は部会ごとの更なる掘り下げが必要になってくるでしょう。7月に入ると常任委員さんやボランティアの方も交えて各人の動きの調整に入っていきます。

親睦事業なので、各学園との交流、情報交換が十分にできる環境を整えて、また満足して帰ってもらえるよう準備をして当日を迎えたいと思います。

中学校より.....

ウェルカムランチ

4月23日水曜日、附属坂出中学校では松韻会役員が設営した保護者間の交流事業、「ウェルカムランチ」が同校、家庭科室で行なわれました。松韻会は幼稚園、小学校、中学校合同のPTAの名称で3校の先生方、保護者の代表により構成されています。幼稚園、小学校から一緒に保護者の方も、新しく附属学園の仲間になられたお子様の保護者の方も附属坂出中学校を知っていただこうと、企画したものです。中学校では初めての試みで会場の飾りつけや、お弁当、ケーキ、お飲み物の手配はPTA役員の方で準備させていただきました。



まず、保護者がクラスごとに別れてお弁当を食べます。その間、中学校で1年を通して行われる行事のダイジェスト版をVTRで流しました。お食事の後は、保護者の自己紹介や、お子様に対して今現在抱えている悩みなどを一人ずつ発表しました。悩みに対する同じ立場の保護者からのアドバイスはきっと真の意味での交流に、また情報交換になったと思います。最後は先生方から、学校生活に対するアドバイスや、貴重なご意見を聴くことができました。約2時間の間でしたが、実りのある貴重なものとなりました。

来年以降も継続していきたい事業の一つです。

全附連PTA総会参加

松韻会会長 植田 博司

5月31日(土)東京大学 鉄門記念講堂に於いて、全国国立大学附属学校PTA連合会総会が開催されました。総会では25年度事業報告、26年度事業計画等が承認されました。今年度、神余前松韻会会長が全附連の監事を務めることになりました。

総会後には講演会が行われ、従業員77人中57人の知的障害者を雇用し、チョコクの国内シェア30%を誇る日本理化学工業株式会社の大山泰弘会長に「幸せな人生は人の役に立つこと」と題してご講演いただきました。

講演会後には交流会が開催され、全国の附属学園の方と意見交換を行いました。たくさんの貴重なご意見を基に松韻会活動のさらなる充実に取り組みたいと考えています。



特別支援学校より.....

4月22日(日)、親和会の総会が行われました。新入学の保護者をお迎えし、役員交代もあり、気持ちも新たに平成26年度の親和会活動がスタートしております。



5月に入り、歓送迎会や運動会といった行事がとり行われ、それぞれの担当となった会員の皆様の活躍する様子からは、既に頼もしさが感じられました。

運営部ごとに、前年度からの引き継ぎが丁寧に行われており、次につなげていく流れが整ってきていることが、今後の親和会活動にも生きてくると期待しております。

4月25日(金)には、本部役員数名が、鳴門で開催された四附連の総会に、松韻会の皆さまとともに参加して参りました。

校種別の実践活動協議会は、毎年他の3県の特別支援学校との情報交換ができるよい機会となっております。今年度も危機管理がテーマに挙げられ、高知大学教育学部附属特別支援学校や鳴門教育大学附属特別支援学校がやはり一歩進んだ防災対策をとられており、大変参考になりました。

四国は文字通り四つの県しかなく、やや地味なイメージがあるかもしれません。しかし、こういった情報交換の際には、一校一校が十分に発言することができ、理解もより深まります。また、お互いの顔や名前を覚えるのにも苦勞が少ないというメリットもあるのです。



四附連総会 アトラクション

その後の情報交換会では、参加者全員で阿波踊りを体験し、大いに盛り上がりました。改めて、附属学園のつながりを大切にしていきたいと思える総会となりました。

よりよい生き方について考えました

5月30日(金)に校内弁論大会が行われました。「社会を明るくするために」というテーマについて全校生が書いた作文の中から、各クラス1名が代表者として発表し、3年生の白川享佑さんと、2年生の森川宝さんが学校代表として選ばれました。白川さんは「主役じゃなくていい」という演題で、所属している野球部への自分の関わり方を通して、自分らしく生きることの価値について熱く語ってくれました。森川さんは、「人権の重み」という演題で、自らの体験をもとに、人間の尊厳とともに、家族との絆の意味について、自分の言葉で主張してくれました。



森川宝さん「人権の重み」



白川享佑さん「主役じゃなくていい」

このような機会を通して、附属坂出中学校が全校生一人一人にとってますます明るく楽しい居場所であり続けてほしいと思います。

中庭の池が美しく蘇りました

5月31日(土)に松韻会主催の土曜メンテナンスとして、中庭の池の清掃活動が行われました。昨年度は学園運動会前に行われましたが、今年度は6月の研究大会の参会者のみなさんに、美しい池を見ていただきたいという思いを込めて計画されました。前日に池の水を抜き、魚たちを捕獲する作業では、ボランティアの生徒たちも活躍してくれました。当日は好天に恵まれ、駆けつけてくださった保護者の方々や生徒、教職員が協力し、藻が水底にたまった池は、透き通った美しい池へとみるみるうちに姿貌をとげました。研究大会では、私たちのおもてなしの思いが込められた池で悠々と泳ぐ鯉を見ていただくことができたと同時に、生徒たちも自分たちを支えてくださっている人たちの存在に気付く機会となりました。この行事に関わっていただいたすべての方々に深く感謝いたします。



中学校

天体観測会

初めての試みとして、昨年度から天体観測会を行っています。これは、星に興味をもってほしいという願いから、専門家である松村校長が企画して始めたものです。

第1回は昨年の12月12日、第2回は今年の6月19日に行いました。どちらも100人以上の希望者があり、抽選で選ばれた50名ずつが保護者の方の送り迎えで参加しました。

写真は6月の観測会の様子です。まずは一番星を見つけようと日没後の空を見上げました。子どもたちは、「あった!」「あそこにも」と声を上げながら、見つけた星を指差していました。その後、明るく輝く木星と土星を望遠鏡で観測しました。子どもたちは、「しましまが見えた。」「木星の周りにいっぱい星(衛星)があった。」「土星の輪っかが見えたよ。」と興奮気味に話していました。望遠鏡には長い列ができ、何度も並ぶ子どももいました。

希望しながら参加できていない子どもたちのために、これからも何度か企画したいと考えています。



小学校

特別支援学校

「やったぞ!! 40周年 おいおいしよう!!」

本校は、昭和50年4月に香川大学教育学部附属養護学校となつてから40年になり、40歳を迎えました。昭和40年4月に香川大学芸学部附属坂出小学校に「南組」が創設されてからは50年。附属幼稚園、小・中学校から離れ、現在の府中町に移転してからは、36年目になります。今年は、お祝の年です。5月11日(日)に行われた春季運動会では、40周年を祝う競技も行われました。

【中・高合同競技】「はこんで つくって ことばをつくらう」

文字の書かれた箱を4人一組になって運んで協力し合って積み上げ、「附属特別支援学校」「やったぞ!! 40周年」「おいおいしよう」の言葉を作ることができました。



11月23日(日)の「ふれあい祭り」では、これまで本校の子どもたちを支えてくださった地域のみなさんや先輩の保護者の方々、先輩の諸先生方に感謝の気持ちを込めて40周年記念式典を計画しています。

どうぞみなさん、40歳になった附属特別支援学校にいらしてください。楽しみにお待ちしております。



幼稚園

先生と友達と一緒に

「せんせい……」、言葉をゆったりと受けとめながらの日々の生活を通して、自分の思いや考えを少しずつ発揮していく子どもたち。大好きな先生に読んでもらう絵本。何度聞いても楽しくて、うれしい笑顔が広がります。友達もやってきて、ふんわりと絵本の世界に浸ります。そよ風を感じるテラスで、「一緒」を感じるひとときです。「また読んでね。」「私も……」と、心のつながりが広がります。



自然とのふれあい～水、砂、虫、草花等に動く心～

親子と一緒に黄組はミニトマト、赤組はアサガオを植えました。毎朝、「大きくなったかな」「お水、飲んでね」と関わっています。葉を伸ばし大きくなる変化を子どもたちはいろいろな思いで見つめています。生きていることを感じる、大きくなる喜びは自分ともつながるものです。

元気に大きくなあれ



また、水や砂の中で、何度となく繰り返される遊び、試す中で不思議さ、ものの性質を自分なりの感覚でつかんでいるようです。といを組む形や転がしていく物を変えたり、水の量やスピードを変えたり……、小さな科学者たちは熱中して遊び、学んでいます。

水を入れた袋を空にかざして、「きらきら」と、水の実感を感じている子、花びらを入れ色の変化を感じる子、水と土のアートどろどろをめいりいっぱい楽しむ子、子どもたちは、全身で自然のすばらしさを受けとめる感覚と力を持ち、生活しています。



編集後記

暑い日が続いています。夏の野菜や草花が元気に育ち、緑の生きる力を感じています。

自然の大きさや不思議さ、すばらしさを感じて、子どもたちは心を動かし、自分とのつながりを見出していくことなのでしょう。附属坂出中学校の研究で見出された「自己のものがたりをつむぐ」ことの大切さ、幼児、児童、生徒それぞれにとって、自分なりの生活を友達やもの・こととの関わり合いによって創っていくように、教職員としても子どもたちの成長に携わっていきたいと思っております。保護者をはじめ関係の皆様、26年度もどうぞ温かなご協力、ご支援をいただけますよう、よろしくお願いたします。

発行年月日：2014年7月18日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

- 倉野 晴代 (附属幼稚園)
- 樽本 導和 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)
- 小林 理昭 中西 健三 (附属坂出中学校)
- 伊藤 宏美 合田 卓生 (附属特別支援学校)